

話題38 「世界の〈水土の知〉の例」

16 ペルー ララオスの段々畑——プレインカからの水土の知

中道 宏

○ 1枚の写真に魅せられた

この写真を見て関心を持たない人はいないだろう。友人から送られたこの写真の現地を見たくなり、ボリビア・リアル山群遠征の乗り継ぎを利用してペルー国リマから往復2日間の行程で現地を訪ねた。



○ ペルーの段々畑も耕作放棄が進んでいるが、見事に保全されている地域がある

同行いただいた同国農業省 AGRO・RURAL の担当者によると段々畑 100 万 ha のうち 30 万 ha が残っており、政府としてもかんがい施設の有無を含め実態調査を行っている。

Yaoyos 地域で段々畑保全活動を支援している NGO Valle Grande Instituto Rural によると



NGO 事務所



標高 3000m にある試験農地から見下ろした
現地研修所・宿泊施設

所有農地は分割相続で小さくなり、戸当たり 0.1ha で自給的農業である、崩壊した段々畑を修復しても生産性が低い、若者がいない、作るものがないので、アルパカ、リヤマ、ビクーニャ等畜産に重点置き、加えて商品作物となる薬草の導入を試みている、

畜産は草地の荒廃を招くので、良質の毛のアルパカを導入して収入を確保するとともに牧草地（個人有と共同がある）7ha 当たり牛 1 頭、アルパカ 3 頭を上限とし、これを上回る場合は屠殺することになっている。これはインカ時代からの農民コミュニティー Comunidad Compecina と絆 Solidaridad によって守られていることになっている、

Yaoyos は環境省指定ペルーの美観 1 号である

とのことである。

Yaoyos の郡長によると

ここは標高が 2800m と高く気温が低いので雨が降る、これより低くなると雨が降らず、農業はできない、

人口は街に出て行くから一定で、自給的農業を営んでいる

問題は水、水があれば農地は良くなるので、ため池を造っている

とのことである。

なぜ高地に住むようになったのかについてスペイン軍や病原菌から逃れてとの説明を時々聞くが、プレインカ時代から水と農業が要因になっているとの説明は分かりやすい。

○ Laraos を訪ね、村長と現地を見る

Laraos 村は標高 3500m。

1 万年前の地震で山が崩れ落ちて川を堰き止め、湖ができ、この水が下流に浸み出し、灌漑水源となり、村ができた。



湖の上流から村を見る。これは夏の風景(いただいたカレンダーをコピーした)。
現地を訪ねた冬には、水位が下がり始めており、遂には空になり、池敷はサッカー場になるとのこと。



7 月初め下流右岸からの湖。水位が下がり、緑は無い。

この写真を撮っている時山から薪材を担いだ農民を見た。話題 29 で紹介されているようにこのような急傾斜地では土壌保全、そのための森林の保全が不可欠であり、また登山で訪ねたボリビアの山村でもプロパンが普及していたので、この山にまだ薪材があるのを不思議に思った。

後ほど村長から、
この斜面の相当高いところまで森林だった(今でも古い伐り株が残っている)
段々畑開発の頃(プレインカ)から木を伐ったのであろう
ここの木はポプラ等外来樹であるが、これからは在来種を植えたい
と聞いた。

人口 1000 人,300 戸。上流の鉾山に雇用があるので安定している。この教会は 1536 年建造とペルーでも古い。



農地 1200ha に、いも、とうもろこし、麦を作る、基本的には自給農業である。
水はプレインカ時代のため池から導水している。



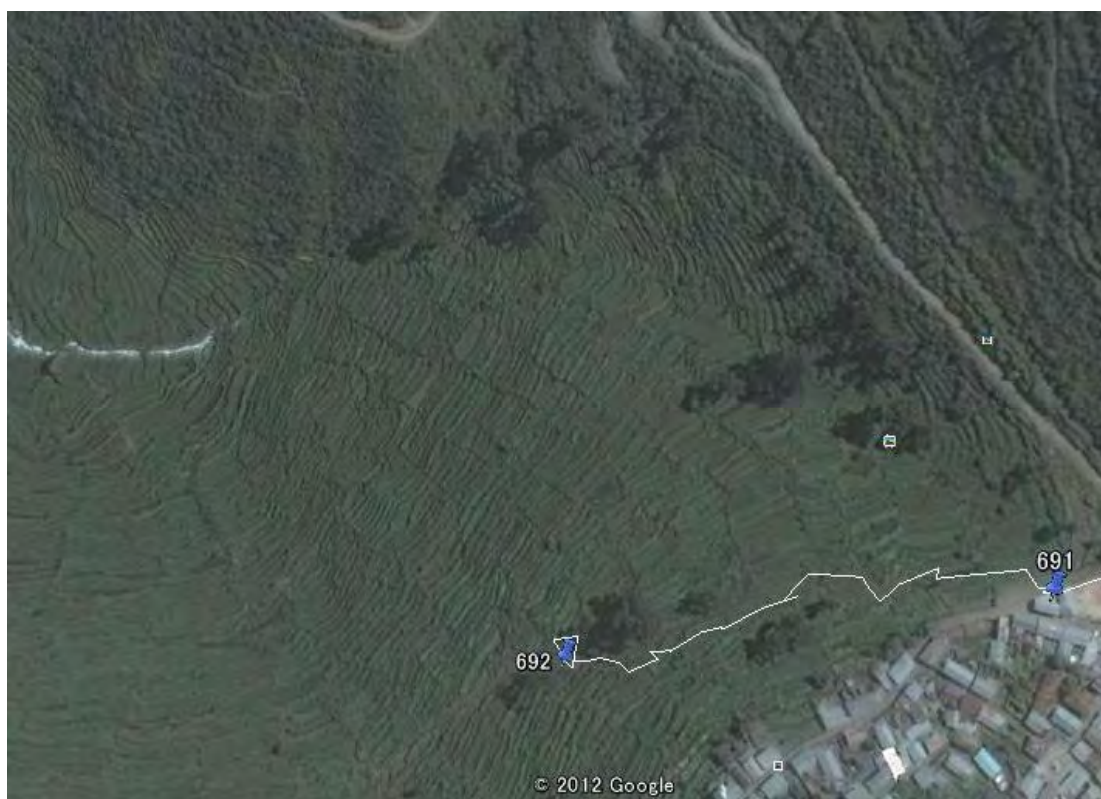
水は足りているが、段々溜まらなくなってきているので、コンクリートで被服したいと
考えている。現在流しているのは段々畑の残渣を餌にしている家畜の水である。アルパ
カ等は高地に放牧している。

段々畑を観る。
写真で観ると



中央上が集落

Google Earth で観ると



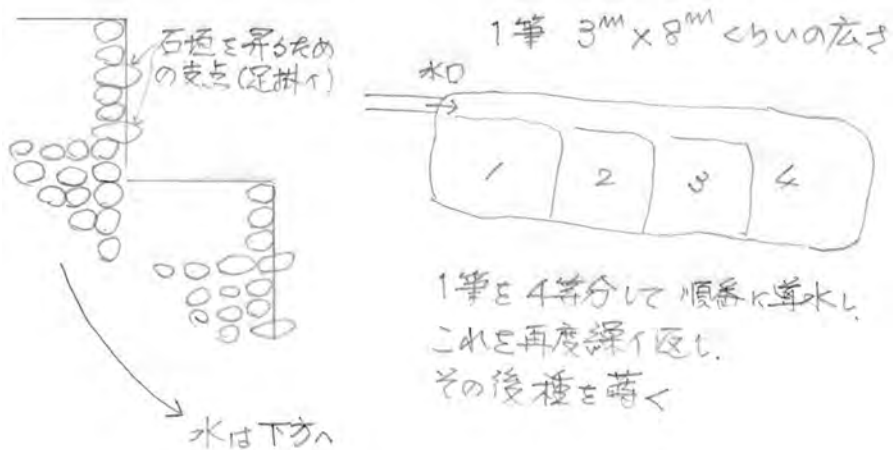
軌跡は、集落から農道を少し降りた経路

区画図では



10 数年振りの農業センサス年で調査で、調査員に会った。

段々畑の構造は、水平な段々畑を農道が斜めに切る模様が楽器 **Antalara** に似ていることから **Antalara** と呼ばれている。



石垣を昇るために支点を設けている



かんがいの跡



1筆の大きさ



末端水路



水盤かんがいで土壤に水分を与えた後、
鋤(?)で起こし、種を蒔く

Carania 村を鳥瞰する

円形に展開する段々畑を道路(標高 4000m)から鳥瞰した。



この上が集落



集落周辺



ここの傾斜は特にきつい

○ 家畜がいる農業

登山は農村地域から始まるので、ペルーでもボリビアでも農村風景を愉しんだ。そこには必ず各種の家畜がいる。過放牧、コモンズの悲劇など家畜による環境破壊が報告されているが、Yaoyos にみるように家畜、畜産が地域社会の維持に大きな役割を果たしていることが強く印象に残っている。

Laraos の村長は家畜が植物残渣を食べて、肥料としてくれると話していた。

○ 情報源

以上の情報は、ペルー国在勤中の友人の、2 日間にわたる早朝から夜遅くまでの調査に随伴し、友人の要約的な解説から得られたものである。氏に深く感謝するとともに、遠からず氏により学術的に報告されることを期待している。併わせて聴覚に難がある筆者の間違いが正されることも願っている。

調査地域は次の Google Earth の旗印のところである。なお、現地を訪ねるには現地に精通した者と安全な車輛が必要であることに念を押しておきたい。



リマ

Yaoyos